

2026年4月24日

台湾・3月輸出受注額は過去最高を更新 (Asia Weekly (4/20~24))

～半導体のみならず、すべての分野で受注が拡大する動きが確認される～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(TEL: 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
4/20(月)	(ニュージーランド)3月輸出(億 NZドル)	79.4	--	65.2
	3月輸入(億 NZドル)	72.5	--	68.8
	(マレーシア)3月輸出(前年比)	+8.3%	+11.7%	+10.7%
	3月輸入(前年比)	+10.4%	+12.5%	+8.2%
4/21(火)	(ニュージーランド)1-3月消費者物価(前年比)	+3.1%	+2.9%	+3.1%
	(台湾)3月輸出受注(前年比)	+65.9%	+41.0%	+23.8%
4/22(水)	(インドネシア)金融政策委員会(政策金利)	4.75%	4.75%	4.75%
4/23(木)	(韓国)1-3月実質 GDP(前年比・速報値)	+3.6%	+2.7%	+1.6%
	(シンガポール)3月消費者物価(前年比)	+1.8%	+1.8%	+1.2%
	(フィリピン)金融政策委員会(政策金利)	4.50%	4.25%	4.25%
	(台湾)3月失業率(季調済)	3.35%	--	3.33%
	3月鉱工業生産(前年比)	+28.68%	--	+16.63%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[台湾]～半導体のみならず、幅広い分野で拡大の動きが確認され、単月ベースの輸出受注は過去最高～

21日に発表された3月の輸出受注額は前年同月比+65.9%となり、前月(同+23.8%)から伸びが加速した。前月比も+14.12%と前月(同+2.90%)から5ヶ月連続で拡大しており、単月ベースの受注額も過去最高を更新している。財別では、主力の輸出財である半導体など電子部品関連の受注が大幅に拡大しているほか、電気機械製品関連、機械製品関連、化学製品関連、プラスチック製品関連、金属関連、鉱物資源関連などすべての分野で受注が拡大している。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国本土向けのみならず、米国向け、欧州向け、日本向け、そして、ASEANなどアジア新興国向けなどすべての地域向けで拡大するなど、旺盛な動きが確認されている。

23日に発表された3月の失業率(季調済)は3.35%となり、前月(3.33%)から0.02pt悪化している。失業者数は前月比+0.2万人と前月(同▲0.4万人)から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、既卒者を中心に拡大する動きがみられるほか、自発的失業者においても拡大している様子がうかがえる。その一方、雇用者数は前月比▲0.3万人と前月(同+0.6万人)から4ヶ月ぶりの減少に転

じており、拡大が続いてきた流れに変化の兆しがみられる。分野別では、サービス業や建設業、公益関連で雇用が拡大する動きが確認される一方、製造業で調整の動きが強まっており、中東情勢の緊迫化を受けた世界経済の不透明感の高まりが影響している可能性がある。雇用を巡る不透明感の高まりを反映して、労働力人口も前月比+0.0万人と拡大の動きに一服感が出るとともに、労働参加率も59.59%と前月(59.60%)からわずかに低下しており、雇用環境に変化の兆しが出ている。

同日に発表された3月の鉱工業生産は前年同月比+28.68%となり、前月(同+16.63%)から伸びが加速している。前月比も+1.62%と前月(同+4.60%)から2ヶ月連続で拡大しており、持ち直しの動きが続いている。財別では、輸出受注の堅調さを反映して半導体など電子部品関連の生産は旺盛な動きをみせているほか、電気機械関連や輸送用機械関連、化学製品関連、木製品関連、縫製品関連など幅広い分野で生産が拡大しており、中東情勢の緊迫化を受けて世界経済の不透明感が高まっているにもかかわらず、足元の生産活動は活発な推移をみせている。

図1 TW 輸出受注額の推移

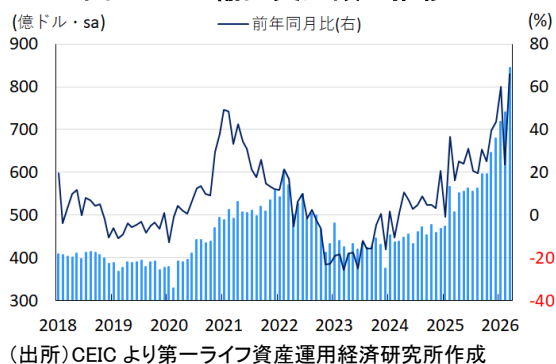


図2 TW 雇用環境の推移

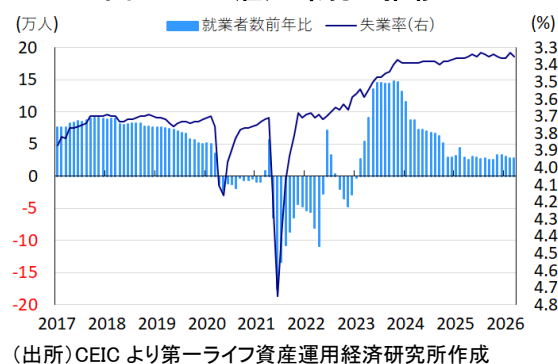


図3 TW 鉱工業生産の推移

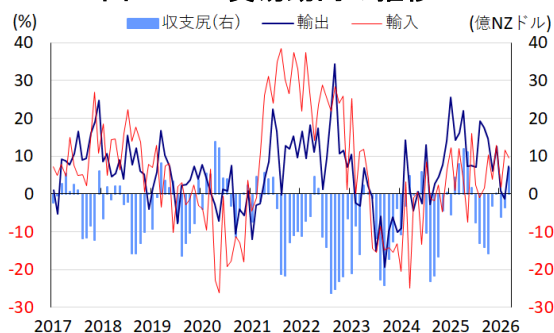


[ニュージーランド]～乳製品や材木、果物など幅広く輸出に持ち直しの動き、貿易収支も3ヶ月ぶりの黒字～

20日に発表された3月の輸出額は前年同月比+7.3%となり、前月(同▲1.3%)から2ヶ月ぶりに前年比プラスに転じている。前月比も+5.8%と前月(同▲2.3%)から3ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど持ち直しの動きが確認されている。財別では、主力の輸出財である食肉や原油、ワインなどの輸出が下振れしたものの、乳製品や材木・木製品、機械製品、果物など幅広い分野で拡大しており、輸出全体が押し上げられている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けが大きく拡大するとともに、隣国オーストラリア向けのほか、ASE

ANをはじめとするアジア新興国向け、欧州向け、日本向け、米国向けなど総じて拡大する動きがみられる。一方、輸入額は前年同月比+9.6%となり、前月（同+11.7%）から伸びが鈍化している。前月比は▲3.7%と前月（同+5.7%）から2ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。財別では、石油製品や機械製品関連など幅広い分野で輸入が減少したことが影響している。その結果、貿易収支は+6.98億NZドルと前月（▲3.65億NZドル）から3ヶ月ぶりの黒字に転じている。

図4 NZ 貿易動向の推移

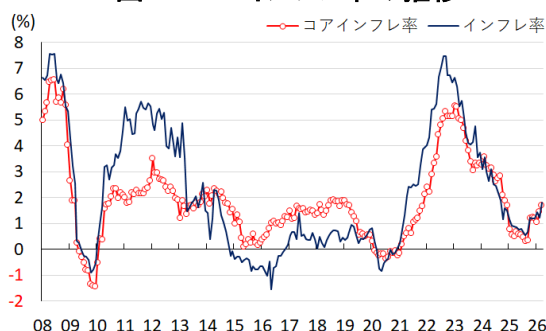


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[シンガポール]～原油高を受け、3月のインフレ率は前年比+1.8%と2024年9月以来となる高い伸びに～

23日に発表された3月の消費者物価は前年同月比+1.8%となり、前月（同+1.2%）から加速して2024年9月以来の高い伸びとなっている。前月比も+0.48%と前月（同+0.58%）から2ヶ月連続でプラスを維持しており、食料品価格は比較的落ち着いた動きをみせる一方、中東情勢の緊迫化を受けた原油高の動きを反映してエネルギー価格は上昇するなど、生活必需品の物価は品目によって異なる動きをみせている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も、3月は前年同月比+1.7%と前月（同+1.4%）から加速して2024年12月以来の高い伸びとなっている。前月比も+0.13%と前月（同+0.46%）から2ヶ月連続でプラスとなっており、エネルギー価格の上昇による輸送コストの押し上げ、財価格の上昇につながっているほか、一部のサービス物価も上昇ペースを強めるなど、幅広い分野でインフレ圧力が強まる兆しがうかがえる。

図5 SG インフレ率の推移



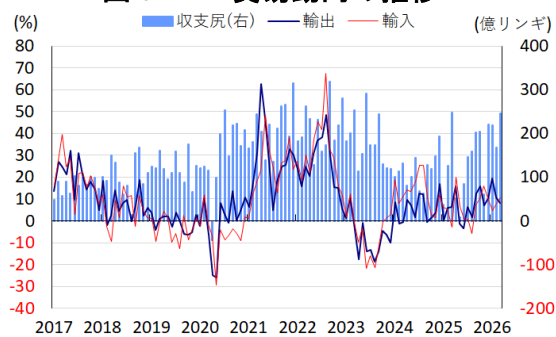
(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[マレーシア]～中東情勢の緊迫化による先行き不透明感を受け、輸出入双方で頭打ちの動きが強まる～

20日に発表された3月の輸出額は前年同月比+8.3%となり、前月（同+10.7%）から伸びが鈍

化している。前月比は▲2.7%と前月（同▲6.2%）から2ヶ月連続で減少しているものの、減少ペースは緩やかになっている。種類別では、中間財関連の輸出に底堅い動きがみられるものの、消費財関連や資本財関連でいずれも減少する動きが確認されている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けのほか、米国向けに底堅い動きがみられるものの、シンガポールなどASEAN周辺国向けの減少が輸出全体の重しとなっている。一方、輸入額は前年同月比+10.4%となり、前月（同+8.2%）から伸びが加速している。前月比は▲6.5%と前月（同+2.2%）から2ヶ月ぶりの減少に転じているうえ、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。中間財関連の輸入には底堅さがみられるものの、消費財関連や資本財関連の輸入が大きく減少しており、中東情勢の緊迫化による先行き不透明感が影響している可能性がある。その結果、貿易収支は+245.53億リングと前月（+167.08億リング）から黒字幅が拡大している。

図6 MY 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

以上